

彼方 「あなた」

校長通信
H24.5.7
Vol.9

「伝説の学校」の「黙想と写本」

「黙想！」各学級から係の生徒の声がします。校内が一瞬にしてシーンと静まります。たった三十秒の黙想の時間が長く感じます。外の鳥のさえずりが聞こえてきます。雨の音が聞こえてきます。

「止めて下さい。」係の生徒の声と同時に一枚のプリントが配られます。「親譲りの無鉄砲で小供の時から損ばかりしている。小学校に・・・」夏目漱石の「坊ちゃん」の出だしの一ページ目が六百字ほど印刷されています。それを傍らに置き「始めて下さい。」という合図で「写本」が始まります。今度は、カリカリというペンを走らせる音だけが教室に響きます。十分足らずの短い時間ではありますが、子ども達が集中して机に向かって取り組む姿を見ることができると、とても嬉しい気持ちになります。「止めて下さい！」の合図と共に「ふーっ」と一息つき、ペンを置きます。

今年度から「朝読書」の代わりに取り組み始めた「黙想と写本」です。子ども達を読みたい本を家から持ってきて集中して、活字に向き合

うのも悪くはありません。でも、子ども達は、私たち教師が読ませたい本をいくら紹介しても一行も読むことなく、アニメ小説、恋愛小説、携帯小説など自分が関心を持った本に流れてしまします。それは、当然と言えば当然です。しかしそうではなく、子ども達に文学作品や名言集にも触れて欲しいのです。本を読まない子にも少しは読んで欲しいのです。緊張して一行目を書き始める作家の気持ちになつて・・・

親指一本で携帯メールを打つのはやたらと早くなった代わりに、授業中に板書をノートに写すのは、だんだん遅くなっています。「書く」という行為そのものがメールやワープロにとつてかわられた今だからこそ「書く」ことにこだわり、全校で集中する時間を共有することにこだわり、教師が読ませたい本にこだわり、文章を写すという誰にでもできることにこだわり、継続することにこだわっていききたいのです。それにより集中力を高め、書く能力を高め、読ませたい本への興味関心を高め、継続することの大切さや与えられた中でも自分からやろうとする気持ちの大切さに気づくことができるものと確信しています。

東葛管内では、落ち着いた朝のスタートをきるために「朝読書」に取り組む学校が増えてきました。その中で、年間の目標冊数を定め、取り組む学校もあります。教師が読ませたい本を

図書室で紹介する取り組みもおおくなりました。さらにそこに「書く」という作業を加えることで、取り組みんだことを見えるようにし、積み重ねていきたいのです。

毎日十分弱、年間約百九十回前後、三年間で約五百七十回程度の「写本」の時間が確保されます。つまり五百七十冊の本の一ページ目を読むことができるわけです。最初の一ページを書き写すことをきっかけにして、一冊でも二冊でも実際にその本を手にして読む生徒が増えたり、図書の貸し出し数が増えたら本当に嬉しいことです。都内の先進校でもそういった報告が聞かれました。

朝の静かな校舎に全校生徒の「写本」の音だけが聞こえる、学級の一日の始まりを精一杯の集中で表現する、そんな学校にしたいのです。

「黙想と写本」を湖北中生のプライドのひとつとなるように取り組みたいのです。

